

五十嵐議員。〔 17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

発言通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、糸魚川版DMOのつくり方について伺います。

兵庫県豊岡市では、地域商社の豊岡版DMO機構を（一般社団法人 豊岡観光イノベーション）をこしの6月に設立し、代表に中貝豊岡市長、職員は専任5人、兼任1人、ほか非常勤のデータ分析専門家1人であり、参加企業などでは、豊岡市と商社の全国20路線を走る高速バスWILLER EXPRESSに加え、近年では、鉄道事業も手がけるWILLERグループ、旅行業免許を持つ全但バス、金融機関の但馬銀行、但馬信用金庫の地元企業4社が基金を拠出し、事業本部長に三井物産から田辺氏を迎え、戦略的パートナーにはJTB、楽天なども列しています。

収益事業としては、インバウンドに焦点を当て、2020年に外国人宿泊客数年間10万人泊を目指し、宿泊予約サイトの運営着地型ツアーの企画、販売、豊岡ブランド商品の販売を推進しています。

そこで糸魚川版DMOの具体的なつくり方について伺います。

(1) 進捗状況について。

(2) 役割と対策について。

(3) DMCとの連携について。

このDMCは、日本版DMCとは地域資源の観光的価値を貨幣価値に返還する企業、いわゆるバリューイノベーションカンパニーであります。

(4) ジオパーク戦略プロジェクトとの関連について。

2、女性の定住移住促進策について伺います。

国では、全ての女性が輝く社会の実現を目指して、女性の活躍は一般総活躍のための極めて重要な柱である。女性活躍推進法の実効性を確保すべく取り組みの見える化や認定制度、公共調達の活用により、企業の取り組みを促します。働き方改革や男性の意識改革、仕事と子育て、介護などを両立支援を進める。

また、起業や再就職、地域活動など女性の多様なチャレンジを支援すると言っています。糸魚川市では、女性活躍計画を含む現在、いといがわ男女共同参画プランを新たに策定しています。

そこで、女性の定住移住促進策について具体的に伺います。

(1) 成果と分析検証について。

(2) 調査・研究について。

(3) 今後の策定計画への反映策について。

(4) 「糸魚川輝く女性表彰」の制度創設について。

第1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、糸魚川市観光協会が日本版DMOの候補法人として、この春に登録され、組織の法人化と旅行業の登録に向けて検討委員会を設置し、計画を進めております。

2点目につきましては、市といたしまして観光協会と連携をしながら積極的に参画する中で進めてまいりたいと考えております。

3点目につきましては、観光協会が着地型観光の旅行商品をつくっていく中で、旅行会社などのDMCとの連携が重要と考えております。

4点目につきましては、ジオパーク戦略プロジェクトの中で観光協会が行うジオツアーやキャンペーンなどを位置づけ、官民一体となって取り組んでまいります。

2番目の1点目から3点目につきましては、男女を問わずU・Iターンに必要な仕事や住まい、子育てなどのほか就学資金の貸与など幅広い分野で移住定住事業に取り組んでおります。

4点目につきましては、今年度、女性活躍推進計画を盛り込んだ第2次いといがわ男女共同参画プランを策定する中で検討してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

DMOからお伺いしますが、今の話を聞くと観光協会が法人化、旅行業、それに検討委員会を設置するということなんですが、その辺の具体的な進捗状況、どの辺まで進んでおられるのかお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川市観光協会が4月の22日にDMOの候補法人に認定されました。その後でありますけれども、まずは組織の体質強化を図る上で法人化が必要であると。また、DMO自体が法人化を目指すことを第一義としておりますことから、法人化に向けた検討を進めておりました。先月でございますが、法人化の検討委員会の設置が決定し、今後、検討委員会の中でDMO推進の方向性、組織強化、着地観光について検討することとしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

これからだということなんですが、その考え方、私が先ほど言った豊岡市の考え方とか、妙高市

も今進んで、大分やっとなるんですが、その辺も含めて今の方向性を今後、取り扱うというんですが、官民一体となって民間も含めた中で今の農協なり漁業組合、いろいろな形で全体が入って今、検討会をやるようとしてるんですか。その辺の枠組みどんな程度ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

検討委員会のメンバーでありますけど、観光協会の会長のほか、各支部から糸魚川支部、能生支部、青海支部がありますが、各支部から支部長とほかに2名という形で9名ですので、協会長入れて10名の組織の中でやっていこうと思って、やる計画であります。今、ご指摘の農協さんとかという話でございますけども、観光協会そのものが農協さん、漁協さん、さらにはさまざまな金融機関を含めた事業者、団体等が入っておりますので、今後、この検討委員会の考え方をまとめる中でそういったところにも幅を、いわゆる協会員全体としてDMOをつくっていく取り組みを進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その考え方ですね。やっぱり最初が肝心なんで、私はやっぱりその辺の方々も検討委員会から入っていただいて、農協さんや漁協さん含めて地域づくり担当も全部含めて地域と一体になったDMOを取り組んで、最初からですよ。やっぱり最初から、今後、考えるとかが言っとる暇ないんですよ、今、権現荘の問題だとかいろいろあるでしょうけど。その考え方、やっぱり今インバウンドだとかいろいろな形でどんどんやっていこうとするところなんで、その辺の考え方どうですか。検討委員会からは、その辺も広げて検討してもらおう。それで、先ほども私が、豊岡市が言いましたように、大手を呼ばってくるとかいろいろな形で、全国公募ですよ。その辺じゃないと糸魚川市はやっぱり発展しませんよ。いろいろな形で皆さんから来られる今チャンスなんですよ。3月に北陸新幹線開業して、今がチャンス。設立でのんびりしてる場合でないんです。その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員おっしゃるとおり北陸新幹線が開業してまさにチャンスであって、ゆっくりしていることではないというようにも思っております。今現在、ともかく法人化というものを急いでおりますので、まずこれをやっていこうと。この過程の中で議員おっしゃるような巻き込み、ともかくDMOをつくる上では、地域の巻き込みが非常に重要だという観光庁の指摘もありますし、またそうでなければいけないと思いますんで、そういう巻き込みをしていきたいと思いますし、また今後、外からの

人材といった視点についても気を配りながらやっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

法人化のめど、その辺をお聞かせ願いたいのと、外からの人材も気を配る。気を配るだけじゃだめなんです。連れてくるぐらいの、やっぱりその辺の覚悟があるんですか。危機感がないんですよ。気配るだけじゃだめなんです。その辺をやっぱり新年度の予算に向けてどうするかを含めて、その辺やっぱり今、新年度予算に今度は取りかかるんでしょう。その辺は、国から連れてくるとか、民間のどっかの人を連れてくるとか、その辺の考えはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

民間から、あるいは外からという話ではありますが、観光庁のほうでは、来年度、民間人材の派遣制度をDMOの候補法人に対して実施したいという考えをお持ちであります。ということで、できましたらこの制度を活用する中で、今、議員ご指摘の部分を取り組んでいきたいと思っております。

昨年度なんですけども、国から大手の旅行会社、また大手の商社等の人材派遣といった話がありまして、私も職員が出向く中でいろいろお話をさせていただいたんですが、結果的にうまくマッチしなかったという事例があります。いずれにしても、ともかくいろんな力を借りてやっていく、今までの観光協会だけ、あるいは市だけ、行政だけといった考え方ではなく、議員おっしゃるようないろんな方を巻き込みながら糸魚川市の観光づくりを進めていきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこがやっぱり大切なんですね。地域住民、宿泊施設、交通事業者、商工業、農林水産業、飲食店も含めて行政組織は一体になって取り組むのがDMOだと思うんです。

そこで、これから始まっていくんですが、観光戦略だとか各種データの収集・分析も含めて、もうジオパーク戦略プロジェクトで動いてるんですから、やっぱり経済波及効果を生み出すためには、そこもジオパークで取り組んでいるんだから一体になって同時進行なんですよ。その辺どういつもりでやっていくのか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まさに観光とジオパーク同時進行だと思っております。ということで、私ども課に観光係があって、ジオパーク推進室があるんだと思っております。議員、先ほどおっしゃったように、北陸新幹線開業というのは1つの大きな核になってくると思います。そうした中で、今の世界ジオパーク、あるいは糸魚川の食といったものを磨き、活用する中で広域連携をして、まさに稼ぐ観光地づくりを進めたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

DMOのM、2つのMがあるんですね。1つはマネジメント、それともう1つのMはマーケティング、この2つなんですよ、DMOの大切なもの。やっぱりそこに目をつけてマネジメントできてマーケティングも含め、国際なんですよ、やっぱりインバウンドも絡めていってるんだから。そこに通じる人を、先ほどの29年度、国が予算つけてくれると、それに乗っていくんですよ、人材も含めて。今から、だけん動き出さないことには、それも誘致できませんよ、企業とのアポイントメントもとれんでしょうから。今が、9月が国の予算確保について一番大切なところだと思うんです。その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員ご指摘のとおり早く取り組まないとだめだということは、十分承知しております。そうした中で、私ども職員を大手の会社等に派遣したり、説明会を聞く中で、常に国の動きを把握する中で、今、進めております。議員おっしゃるように、乗りおくれることのないように前向きに進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺で取り組んでると、水面下でしょうけど。やっぱりそこら中にDMOが上ってきますんで、取り合いなんですよ、競争の時代だから。やっぱりいい人材を見つけるっちゃ早目に手を挙げて、その辺から国をバックアップして国会議員も動かしながら、どう人を集めるか、そこだと思うんですが。やっぱりマネジメントが一番大切なのは、利益の創出と雇用の創出。ここがマネジメント。それとマーケティングは、やっぱり商品、サービスの、購入して地域資源の貨幣価値への転換。それと観光客の満足度向上によるリピーター化の実現。リピーターがある。来てもらわなんですよ。みんな潤ってもらいたい。稼いでもらえるようになるんです、同時進行で、今、ジオパークも絡めて。その辺で市長、人材どうでしょうか、今やっぱり打ち出していないことには、か

なり遅くなると思うんですが。水面下で動いてるでしょうけど、市長のやっぱり覚悟を、人材、誘致、派遣含めてどんな覚悟でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり今我々、人材交流、行っております。そういう中で、非常にいろんな情報が早く入ったり、また早く行動ができる状況があるわけがございますので、我々といたしましても今、ご指摘の点について、これは絶対やっていかなくちゃいけないことでございますので、どういったところからというのが、やっぱり大事になってくるんだろうと思うので、今以上な、やはり広い多様性の中からという形になるわけがございますので、他の都市にない、また糸魚川市のこの特徴をしっかりと出し、いける方向で進めていきたいとは思っております。そのように、その辺の目的をやはりよく理解していただいた人を求めていると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ市長の覚悟は素晴らしいと思うんで、その辺も含めてやっていただきたい、こう思っております。

それで、DMOに必要な4つの視点があるんですね。1つ目が、カスタマー視点、ビジネス視点、プロフェッショナル視点、4つ目がサステナブル視点、ちょっと口回りませんが、サステナブル視点。この辺でやっぱりサステナブル視点というのは、ビジョンによる戦略組織のマネジメント。それとPDCAをマネジメントできるリーダーになってくるんですが、この辺のやっぱり考え、4つの視点も含めながらどう行動していくか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今の4つの視点に共通することは、いかにして組織をきちんと体質を強化してもうけられる、お客様の満足を得て糸魚川に来てみたい、行ってみたい、そして糸魚川で満足できるといったことだと思います。

つまり、いずれにしましてもお客様視点に立ったものの考え方の中で進めていきたいというように考えております。

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員の一般質問の途中ではありますが、昼食時限のため、ここで暫時休憩をいたします。再開を午後1時といたします。

午後0時01分 休憩

午後1時00分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き、会議を開きます。

昼食前に引き続き、五十嵐議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

午前中ありがとうございました。

続いて、先ほどありましたが、今度は2つの共有。1つは目標の共有と情報の共有が大切だと。この2つを組み合わせると業績のアップにつながるということで、情報の共有を通じて進捗管理、これがまたプログレスコントロール、進捗管理、これを重要だと言われてるんですが、この辺も含めて、飯山観光局が70人ぐらいの体制で、この前、妙高版のDMOが設立されて、そん中で国の地方創生加速化交付金を活用して、CRM、顧客データ管理システムの導入によるデータの収集管理と個々のニーズに合った情報発信、旅行商品の造成、販売、ホームページへの誘因を促す宿泊予約サイトへの広告掲載、韓国、台湾へのプロモーションと香港旅行雑誌とのタイアップ誘致、この辺をもう国の加速化交付金でやってるんですよね。この辺の状況は、お聞きになっとるか。糸魚川版としては、どう考えているか、その辺教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

妙高市さんの状況につきましては、今、上越、妙高、糸魚川と三市連携の取り組みをしておりますので、その取り組みの内容については、お聞きいたしております。特に、予約サイトの関係では、妙高市さんがやってる事業は、糸魚川市も取り入れるような形の中で事業展開をさせていただいているところであります。

妙高市さん、今やられている、例えば韓国とか加速化交付金を使った取り組みでありますけども、糸魚川市のほうは、北アルプス日本海広域連携会議の中で、台湾からのサイクリングのお客さんをお呼びでこようという取り組みを観光庁と連携会議が連携する取り組みとして、今、進めております。秋から年末にかけては、台湾のモニターツアーというのも実施しますし、こちらから向こうに営業活動するといった形をとっております。いずれにしても、当市にとって一番やりやすい仕事を観光庁のメニューの中から選んで実行していくと、こういった体制で今後も進めていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

いろいろな形で上越3市で、北アルプス連携会議、それも含めて一緒にやっとなんてということなんです、やっぱり独自の糸魚川版をつくるということなんで、単独、糸魚川らしさを出すためにも必要だと思う。

そこで、大分県の日田市が観光協会改革、改革せんきゃ今の観光協会じゃだめなんです。やっぱり必要だと思うんですね。その辺も含めてDMO並びに、その日田市の事例、おわかりでしたら。いろいろな形やっとなんてと思うんですが、すばらしい点を学んでいって糸魚川版に取り入れていく、その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

日田市というと、かつて甲子園でも戦う関係にあった市でありますけども、今、日田市は日本一の観光協会をつくり上げるんだといった中で、4年で観光協会の事業規模を3倍にするし、自主財源を6倍に拡大しようといった取り組みを、今、目標として持っているというように聞いております。その中で、日田市も何をやっていこうか、何を収入として得ていこうかという中で、広告料収入であったり、旅行手数料収入であったり、企画プロデュース料収入といったものを言っております。この目指すものは、今、糸魚川市観光協会が着地型観光を進めて旅行業をとって、旅行手数料を得ていこうといった方向と同じだということのように考えております。いずれにしましても、ほかの先進地を参考にしながら取り入れるべきものは取り入れて糸魚川の観光地づくりを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その辺なんですよ。やっぱり糸魚川に合ってるかどうかも比べながら取り入れるものは取り入れて、日田市でイノベーション型の改革なんですよ。その辺やっぱり企画と営業を強化することで、もうけを出してるんですよ。やっぱりその辺も含めてREデザイン、デザインをして、物語性も含めて、全体的なプロデュースも必要なんです、その辺も含めて、日本一の観光協会を、先ほどおっしゃったようにつくり上げるということなんで、そのぐらいやっていただきたいなと、こう思っておりますし、地域の意識が向上して、新たな目標が、違う目標が生まれていく、可能性は観光協会が変わっていけばそうなると思う。また、地域全体が盛り上がってるもので、ぜひその辺も参考にさせていただきたいなと、こう思っております。

それと、DMC、先ほど言ったんですが、豊岡市含めて広島県の尾道市、これがやっぱり地域に

雇用を生んでるんですよね。全体でいくと100名以上の雇用を生んで、プロジェクトを何本かやっとなんですけど、その辺の尾道の参考になるような、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

尾道市は、今、しまなみ海道ということで、サイクリングスポットとして注目を浴びております。私も今、VJ、サイクリングで台湾からお客を呼ぼうというのは、しまなみ海道、いわゆる尾道に来ているお客さんを、ぜひ糸魚川へ連れていこうといった取り組みをしているわけでありまして、その中で尾道のすばらしいところは、地域に雇用を生み出すための企業をつくっていったということだと思います。ここの部分はなかなか難しいところでありますけれども、行政のできることとして、そういった環境づくり、そういった企業ができる環境づくりをしていかなければならないというように認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めて、雇用につながるような取り組みも、観光だけでなく、それに付随した取り組みはいっぱい成り立っていくのが必要だと思うんですが、その辺も雇用を生み出すためには、商工農林水産課も含めて、産業部長どうでしょうか。その辺の点も含めて雇用が必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

日本版DMOから、今、派生しましてのご質問だと思っていますけれども、今回の日本版DMOそのものが非常に注目を浴びるというタイミングは、今回の地方創生というステージに上ってきたことで第一陣の認定、あるいは第二陣の認定というところに来たんだろうというふうに思っています。今、糸魚川市観光協会の話から始まっておりますけれども、やはり組織強化とか、あるいはまた旅行業の取得というところは、観光協会そのものが稼げる法人になることが、もちろん体質強化をする中でさらに稼げる法人にということを狙ってるわけでありましてけれども、やはり地方創生の言葉ではないんですけれども、雇用というところは、地方創生とは切っても切れない、そういう関係にあるというふうにも思っています。尾道市だけではありませんけれども、やはり雇用拡大、お金が回る仕組みづくりとかそういった意味では、これもDMOの中での1つの大きい課題というふうに捉えております。それぞれの市、自治体における観光協会の取り組みは違えど、糸魚川市に合った形での雇用拡大も含めた糸魚川版DMOの設立というところへ結びつけていけるように頑張っていきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めてやっていただきたい。

それとジオパーク観光プロジェクトでやってるんですが、この前の新潟フォーラムの中で、パトリック・マッキーバーさんですか、この方もおっしゃって、ツアーガイドとアイルランドも含めて火山のストーリー、1カ月1万ユーロ、ブランディングが必要だと。地質業もやっとして、子供、地域の歴史、化石、ツーリスト、谷ストーリー、この辺の収入コース、稼げる場所が必要だと言われておりますし、そこらでいろいろやってるのを経済波及効果を生むような、やっていただきたいと、こう思ってるんですが、ジオパークも含めて全体的にどうこれからやっていこうと思ってるんでしょうか。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まさに稼げるというのが、一番のキーワードになってこようと思います。交流人口を拡大しても、ただ人が来てお金を落とさなければ地域には何も得るものがないわけですから、人も来ましたが、そして地域で消費をしてもらってお金を使ってもらおうといったことが非常に大事だと思います。議員ご指摘の部分でいえば、まさに経済波及効果、お金というものを意識しながら事業推進に当たっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ経済に波及するような、糸魚川が潤うような形にしていきたい。

それと今、産業革命と言われております。それを偶然に起こるのを待つのではなく、必然的に引き起こすように働きかけなければならないと。その中で4つのM、いろいろ言ったんですが、やっぱり4つ目のMは、マン。地域づくりは、人づくりと言われております。ぜひやっぱり人、人財、人財の財は財源の財だと思うんですね。そこを含めてやっていただきたいと思うので、その辺の全体また含めて市長いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく、やはり人であります。我々は資源を持っておる地域でございますので、それを生かす

ことが一番大切であるわけでありますが、1人、個人ではできないわけですので、やはり複数の人としっかりと連携をしながら、また企業や行政、そういったところも巻き込みながら活動しなくちゃいけないわけでありまして、リーダーが一番問われるところですので、そういった育成をやらなくてはいけないと思っておりますが、なかなか昔と違いまして、昔は青年団活動、婦人会活動というような形の中で、地域でそれが培ってきた部分がございます。

しかし、そういったものが今ないもんですから、なかなかそういう地域を巻き込んだり、エリアを巻き込んだり、市を巻き込むというような人材が不足しているところだろうと思っております。なるべくそういった人たちが出てくるような環境づくりをしていきたいと思っております。そのようなことがうまくいけば、素材は、また資源はあるわけですので、うまくいくだろうと思っております。そういったことを非常に難しい事柄であろうと思うわけですが、挑戦はしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ挑戦、やっぱりチャレンジャーをふやさないことには、企業も含めて、次にある女性の起業も含めて必要だと思う。若い方々も含めて、まさにチーム系魚川だと思うんですよ。チーム系魚川が機能してればやっぱりDMOも含めてできると思うんで、その辺も考えて市長トップにして、今、待ったなしだと思うんですよ。待ったなしで、はっけよい残った、残ったと動いとる。それに乗りながらやっていく必要があると思うんで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次、移ります。

女性の関係で、合計特殊出生率、1点教えてもらいたいのと、共働き率、それと女性の労働力率、系魚川で正社員比率、今、移住とか定住しとるんですが、転入・転出口比率、人口の推移、この3年間の人数どういふ状況になつとるか、過去3年間の移住も含めてちょっと教えていただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

合計特殊出生率、こども課のほうから報告させていただきます。

平成26年の数値でいいますと系魚川市は、1.73であります。新潟県の平均が1.43、国の動向では1.41という数値でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

では、商工農林水産課のほうから、共働き率につきましては、就業構造基本調査にあるんですけども、今、当市のほうでは少し調査をしてませんので、全国平均では45.4%という数字を確認しております。

それから、女性の労働力率でありますけども、これは国調から持ってこられるんでありますけども、糸魚川市では平成22年に45.3%、全国平均が49.6%になっております。

それから、正社員比率の関係のご質問もいただきました。これについては、今のところデータはございませんけども、実は昨年度から雇用促進協議会にも加入をしてない企業も含めて実態調査をしておりますので、近々、今年度の調査の中には、正規・非正規を含めておりますので、今年度の調査からは、その数字が具体化されてくるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

池田市民課長。〔市民課長 池田正吾君登壇〕

市民課長（池田正吾君）

お答えします。

転入・転出入口比率であります。過去3年間ということありますので、平成25年度につきましては、転入が811、転出が1,062、比率としては転入を1としますと転出のほうは1.31。平成26年度につきましては、転入が847、転出が1,059、比率であります。転入1に対して転出が1.25。平成27年度につきましては、転入が824、転出が1,079、比率につきましては、転入が1に対して転出が1.31、そういった数字になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

移住の過去3年間のデータについてお答えいたします。

移住者自体は、私ども等で用意してる空き家バンクとかそういった制度利用の方ということに限られておりますが、この3年間で男女10名ずつの20名、転入・移住をしてきていただいております。うち職業別でいきますと農業関係が4、漁業関係が2、ほか事業主や会社員が5という状況であります。この数字は11になりますので、ちょっと差がありますけど、ほかの方は定年退職をされてこちらへ来られた方とかそういったことになります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

やっぱりデータを分析しながら、どう切り出していくか。追跡調査も含めて移住定住、女性をふやしていかないとだめだと思うんで。この28年の3月で管内就職が93人、就職予定者のうち51人が、男性が38人、女性が13人、400人ぐらい卒業しとって女性が13人しか残らない。

やっぱりこの辺はなぜ、その理由とかは把握してるのか。その後の追跡調査も含めてどう分析・検証してるのか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今までの議会からのいろんなご質問の中にもお答え申し上げてまいりましたけども、やはり事務系を希望する女子の就職のマッチングがうまくいってないところあるんだらうなというふうに捉えております。高卒以外にもやはり女性の働く場ということに関しましては、今年度から糸魚川の職業訓練校におきましても新たな講座を開きまして、出産後、仕事を見つけやすい技能をどのように身につけるかというところも新たな講座としてつくっておりますので、そのような新たな動きの中から少しでも女性の方が働ける場を確保していきたいというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

それと女性の働き場所確保へと市役所女性職員庁内チームでいろいろな企業回ってると思うんですが、その辺の実態調査を含めて、次に何をしたらいいのか、その辺までいってるのかどうかわかりませんが、その辺の経過と今後の課題と解決方法を教えていただきたいと思います。

「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

現在、女性の働く場所確保対策プロジェクトチームということで、女性だけのチームをつくりまして会議等を開催しております。現在、5月2日に第1回会議を開いて、6月27日まで進めておりますけれども、その中ではハローワーク、それから看護学生、それから建設業の職員、介護センターの職員というところと意見交換をする中で、現状と課題の分析をする中で次のステップへということで進めております。

その中で気づきということで、糸魚川らしい働き方、自分らしく暮らすことということが、やはり幸せ感の向上につながる。それから、働く場所の魅力、そういったものを重視することも必要なんだらうと。それと、環境や体験から身近な仕事に憧れを抱いて職業を選択している人たちも結構多いというところが見えてきたところと。そういう中でやはりふるさとで夢をかなえる働き方をどういう形で見つける方向に持っていくか。それから、教育から就職、結婚、出産までのイメージというのをどういう形で描いていけるのか。そういうところを検討する中で施策にまとめていきたいということで進めております。今後、子育て支援センターに来ている方たちから少しアンケート調査も実施してみたいというふう考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

それとまた、女性活躍計画を含めて男女参画プランを今やっていると。この辺の今の進捗状況とスケジュール的にいつごろ私ら議会のほうに示されるのか、その辺のスケジュール管理はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

男女共同参画推進プランに関しましては、昨年度、男女共同参画に関する市民アンケートをとりまして、その調査結果をもとに第1回の男女共同参画、こちらのほうは外部の委員で構成される推進委員会ですけれども、それを開いてアンケートの結果について分析しております。今後、9月に第2回を開催する予定でございます。おおむね12月の市民厚生常任委員会のほうには、案というものをご提示をしたいというスケジュールで今現在、取り組んでいる最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひいいものにしていただきたいと思いますし、人口減少対策でいろいろな移住定住総合支援だとか社会減対策、いろいろな形で今年度も含めてやられと思うんですけども、その辺の検証も含めてどんな考えをお持ちなのか。来年度の予算に向けてどう考えるのか。その辺も一連だと思うんですよ。女性をどう糸魚川に残すか。それで移住女子をふやすか、その辺も含めてどういう考えなのかお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

地方創生戦略につきましては、現在、27年度の事業について検証作業を進めております。その中で次年度に向けての戦略の見直しというものを進めていきたいと考えております。やはり今の総合戦略で欠けている部分という中では、行政の取り組みというのは出してるんですけども、そのほかの市民や団体、そういったところとの、どういう形で進めていくかというのが少しわかりづらい形になってると思いますので、そういった点を整理する中で前年度の反省、それも踏まえて、また各種団体との意見交換、そういうものも含めて見直しのほうは進めていきたいと思っております。そういう中で、確かに女性の人口といいますが、そういったものが少ないというのでも出ております。そういった点では市内のプロジェクトチームの検討結果、そういったものも踏まえて次年度の予算

に向けて進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこなんですよね。総合戦略も含めて次年度への予算化、国は来年度に向けて動いてる。県もそうだし、糸魚川も同じ見直しして、もう今度は次年度の予算にいかんなん。この行政、市役所ばかりわかっとなんかだめなんだ。やっぱり市民団体やいろいろな団体と、これらやると、これからでないですよ。いろいろやってきたことを行政ではこうしたいからと具体策を出してキャッチボールせんなん。その辺がやっぱりないんですよ。計画ばっか立てとなんかだめなんです。具体的な案をどうすればいいのかを早目に練っていくべきだと思うんですが、この辺も含めて6月に提案させてもらった高校生、JK、女子高校生の地域活性化プランとかいろいろな形で、今、大学生から今回プランをいただいたわけなんですけど、その辺の中で次の予算につながるようないい提案とかございましたでしょうか、いかがですかその辺は。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えします。

大学生のプランの提案という内容でいきますと、最近でいけば地域の需要創造プログラムということで、大学生が市内のいろんな名所、観光地等を調査する中で着地型観光としてのメニューを大学生の視点でつくっていただくというものに取り組みさせていただきました。これは大学生側としては、そういった1つの企画をつくり上げるというスキルアップを狙ったものでして、そのスキルアップの中で糸魚川市としても若者の視点による市に向けての提案がいただけるということで取り組んだものであります。

また発表会、先日ありましたけど、おおむね糸魚川、能生地域、糸魚川地域は東と西、それから青海地域と4地域に分けて、学生が手分けして5泊6日で企画書を練り上げております。この前、学生のおおむねの発表会ということであったわけですが、現在、最終的な案として取りまとめながら、これを企画運営をやっていただいたリクルートのほうで、今度は、本当の商品として成り立つかどうかまでも検証しながら最終的な提案をいただくということになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

最終的にやっぱりそこですよ。商品になるような提案も含めて大学生、やっぱり女子高校生も中学生も含めてその辺も提案していただいて、糸魚川に残れるような体制っちゃ、本当に必要だと思うんです。やっぱり教育がよくなければ移住してきませんよ、移住女子が多くなりませんし。この前、6月議会でも伊藤議員からありました伊那市、その辺、高校生も使うとなればやっぱり移住

したくなるような教育をしてないとだめなんです。教育部門は今後いたしますが、その辺の考えというのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃいますように女子の多くは、地元に残るといふ面からすれば学校教育、特に高校の教育というのは非常に大きなウエートを占めるというふうに思っております。特に、白嶺高校も含めてでありますけども、やっぱりそれぞれのコースが明確になっている中で、やはり地元の企業が望むような高校生、そういうものをしっかり教育の中で植えつける必要があるというふうに思っております。そういう面からも時間は少しかかりますけれども地元の需要になるような、特に看護や介護、そういう面でも特色のあるコースの中でしっかり教育の中で植えつけてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ教育は必要だと思う。白嶺高校の魅力化も含めて、今後、高校と市がいろんな形で検討委員会を設立してやってるので、それは地方創生特別委員会でやらせていただきますが。U・J・Iターン、6月に提案させてもらった孫ターンも、小田切教授も言っていたように、これを調査研究すると言ったんですが、その辺を含めてどう考えているのか、どう調査して、全国的にはどうやってるのか含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

孫ターンにつきましては、大変申しわけございません。残念ながら今こういったいい取り組みとどうか、先進的にといったあたりを調査している段階でして、まだ具体的に我々のほうで、じゃあどんな取り組みをしていこうかといったところまでは至っておりません。現在、いろんなところからの調査を進めているという状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

調査、言うだけはただなで、やっぱりそれに実践を伴わなければならない。だめならだめでいいんです。それは情報収集やって、次につながるような形を、収集は課長がお願いすれば全国のデ

ータがポンと返ってくるでしょう、リサーチが一番必要なんだから。それはすぐやってくださいよ。

それと、きょうのNHKでやっと思った湯沢町、伊那市もそうなんですけどPR動画作製してやるという工夫、やっぱりちょうど、横澤課長でないですけど、横澤夏子を利用してPR動画ぐらいくって、その辺ぐらいを糸魚川をPRするの、大切だと思いますし、その湯沢町がやっと思った移住定住促進策、そん中で通勤補助、湯沢は新幹線通勤も含めてその辺の補助、ここだってできるような今、大学生で学生ですか、それをやってると思うんですが、その辺の通勤、こっから住んでもらって通ってもらうぐらいの助成を特に、その辺も必要だと思うんですが、やっぱりその辺まで考える必要があると思うんですが、その辺はいかがです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

PR動画につきましては、恐らく、伊那市もそうでしたが、シティプロモーションということでこういった方をターゲットに移住をしてもらうか、どういうふうにアプローチするかという中で動画をつくられた、非常にわかりやすく呼び込みやすいというか、インパクトがあって非常にいい方法だなというふうには我々のほうでも感じております。やはり移住政策とか支援策とかいろいろあるんですが、どのようにPRしていくかというのが非常に私どもとしてもテーマだなというふうに考えております。その中で、動画を含めPRのプロモーションというのが非常に大事ななと思っております。そういった中で、今ほどあった新幹線通勤とかについても、今通学のほうは支援をしておりますが、通勤についてはどうするかというのも引き続きではあるんですけど、今、研究をしないといけないねということでは考えておりますので、またその辺、今のご意見も含めて、また研究をしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺、全国から収集して、募集するぐらいでもいいんでないですか、糸魚川どうすればいいかぐらいの。それに最優秀なら幾ら、金やればあれなんで、やっぱり糸魚川のコシヒカリとかいろいろな形であげられるような、そういうのも必要ではないかと、こう思っておりますし。

北陸3県、富山、石川、福井、そん中で福井モデル、福井がやっとなる世界に通用する福井モデル、女性も羽ばたく「一緒にやろう」経済、そん中でダブルインカム、皆さんご存じでしょうけど、共働き率、合計特殊出生率、いずれも全国平均を上回るとる北陸3県ですよ。それで、企業は付加価値を高めた経営により、家計に正社員雇用を提供し、家計は企業に質の高い労働を提供し、双方を高め合う好循環を構築していると。

また、行政自治体は、企業の研究開発、家計の子育てをサポートし、好循環をさらに加速させて。正社員を含めてできる、両方ですね、ダブル。両方がいい状態に持っていけるようなそういう体制が必要だと、こう思ってるんですが、そのためにも今いろいろな形で午前中にも芸術、アートの関係もあったんですが、糸魚川女性会議というのは、今、市職員だけでやっとなるんですか。やっ

ぱり企業も巻き込んで、かなり社長がおると思うんですよ、女性だけの。その辺の女性会議というの設立は、皆さんも過去、何人かやっとなんです。女性会議の設立はどう考えてますか。今こそ必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

女性がいろいろなテーマで話し合う場というのも必要でありますし、また、大事なことからいうふうにも思います。ただ、どのようにそういうものを設立していくかも含めて、今後、どのような形ができるのか含め検討していきたいというふうを考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

検討・研究は、言うことはただなで、ぜひ輝く女性表彰制度も含めていろいろな形で今、女性起業家をネットで支援、新聞にも載っていましたが、その辺も含めて、ここの糸魚川で起業してもらおうとかいろいろな形でやっていただけるような糸魚川にしてほしいことを願ひまして一般質問を終わります。

ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実でございます。

今回の質問項目の定住促進と交流観光は、いずれも人口が減って糸魚川市の活力がなくなることへの対策ですが、この人口対策において、行政が単なる計画づくりの繰り返しにとどまることなく課題解決型のプロジェクトを運営して結果を出していくことを期待し、私なりの提言を交えての質問としたいと思います。

そこで、質問に入ります前に、この4月に会派政務調査で伺った島根県浜田市とその定住支援への取り組みについて概略をご紹介します。

浜田市は、島根県西部の日本海に面し、東西約46キロ、南北約21キロ、面積約690平方キロメートル。市域の大部分が丘陵地や山地で、中国山地が日本海まで迫り、その海岸線はすぐれた自然環境と天然の港をつくっています。主要河川と水資源に恵まれ、多面的機能を持つ中山間地域は、環境の保全にも大きな役割を果たしています。有名な伝統芸能、石見神楽や石州半紙などの文